

意見書

3件を可決し国・県へ

12月定例議会では3件の意見書が提出され、審議の結果2件を全員賛成で可決、1件は賛否がわかれ採決の結果、賛成多数で可決となり（次ページに関連記事）、関係大臣などに提出し、実現を要請しました。

（要約して掲載）

戦没者の遺骨を埋立てに使用しないよう求める

糸満市摩文仁の平和祈念公園内にある「平和の礎」には、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなられた241,686名の氏名が刻銘されている。宮城県出身637名の氏名も刻まれており、その1割にあたる60名が現在の栗原市出身者である。沖縄県民は犠牲者の遺骨を収集し、慰霊の塔を次々に建立して戦没者の霊を弔ってきた。しかし、この一帯には未だ多くの遺骨が地中に眠っている。

2016年3月に施行の戦没者遺骨収集推進法は、遺骨収集を国の責務と定め2024年までを集中実施期間と位置付けている。し

かし、政府は糸満市などの土砂を採掘し、基地建設の埋め立てに使用する計画を発表。これは戦没者の尊厳を冒瀆し、人道的に決して許されない。また、今なお遺骨の帰りを待つ遺族の思いを踏み躪るものである。以上の趣旨をもって、下記事項を強く要望する。

提出先

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
厚生労働大臣
国土交通大臣
環境大臣
防衛大臣
沖縄基地負担軽減担当大臣
内閣府特命担当大臣

① 戦没者の遺骨などを含む土砂を基地建設の埋め立てに使用しないこと。

② 2016年3月に超党派の議員立法で制定した「戦没者の遺骨収集に関する法律」により、日本政府が主体となり戦没者の遺骨収集を実施すること。

インボイス制度の廃止を求める

物価高騰が深刻な影響を与える中、複数税率に対応した消費税の仕入税額控除方式として、いわゆるインボイス制度が令和5年10月1日から実施される。対象となるのは、個人事業主や小規模農家など多岐にわたる。

行できないため、課税業者との取引から排除され、廃業を余儀なくされる懸念がある。

財務省は同制度の導入で161万人の免税事業者が新たに課税事業者になり、消費税率を引き上げなくても2480億円の増収になると試算。制度の導入は、長引くコロナ禍により打撃を受ける地域経済の再生を阻害しかねない。さまざまな団体や個人から、制度の廃止などを求める声があがっている。

提出先

内閣総理大臣
農林水産大臣
財務大臣
衆議院議長
参議院議長

県の子ども医療費助成

18歳まで引き上げを求める

県内ほとんどの自治体で、子ども医療費助成の対象年齢を18歳までに引き上げているが、宮城県における子ども医療費助成は、就学前までで、市町村における財政的負担が重くなっている現状がある。

特殊出生率が全国で2番目に低く、3年連続で過去最低を更新しており、子育てしやすい環境づくりは喫緊の課題である。

そのための最優先課題として、県の子ども医療費助成の対象年齢を18歳までに引き上げることが強く求め

提出先

宮城県知事

討論

インボイス制度の
廃止を求める意見書

反対 三浦 善浩 議員

制度が必要な理由は①取引での消費税額を正確に把握②正確な税率を確認③不正やミスを防ぐためである。益税や納税の公平性の観点からも、制度導入はやむを得ない。影響を受ける事業者の思いも十分承知しているが、10年間の経過措置後の正式導入となっている。

賛成 高橋 将 議員

課税事業者となれば、新たに消費税を納入することとなる。価格に消費税を転嫁できずにある現状の中で資金繰りがさらに厳しくなる。影響を受ける中小企業が多く、サービス低下、価格増加、給料減少、雇用減少など壊滅的な影響を及ぼすことから廃止に賛成。

賛否一覧表 (インボイス制度の廃止を求める意見書について)

議員氏名 件名	議決結果	採 決 結 果																								
		鹿野 芳幸	澤邊 幸浩	佐藤 久義	佐々木嘉郎	佐藤 勇	三塚 東	高橋 義雄	小野 久一	菊地 広志	濁沼 一孝	相馬 勝義	阿部 貞光	高橋 将	佐藤 悟	佐藤 文男	高橋 渉	石川 正運	五十嵐 勇	菅原 麻紀	三浦 善浩	尾形 勝通	菅原 勇喜	高橋 勝男	佐藤 千昭	
発委第3号	可決	賛	賛	賛	賛	欠	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	賛	賛	賛	反	賛	賛	賛	賛	—

※「賛」⇒賛成した議員、「反」⇒反対した議員、「欠」⇒欠席、「—」⇒議長のため表決に加わらない

表 彰



たかはし わたる 議員
高橋 渉

令和4年宮城県文化の日表彰において、多年にわたる議員活動を通じて、地方自治の確立と住民福祉の向上に尽力された功績により、宮城県知事から表彰されました。

陳 情

12月定例議会に6件の陳情が提出されました。

(敬称略)

農業用揚水機維持管理補助金制度の継続の要望書

新西神原土地改良事業共同施行

委員長 佐藤 幸生
新南沢土地改良事業共同施行組合

組合長 加藤 正浩

最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める政府に対する意見書採択を求める陳情書の提出について

宮城県春闘共闘会議

代表幹事 高橋 正行

令和5年度税制改正に関する提言について

一般社団法人宮城県法人会連合会

会長 菅原 裕典

公益社団法人栗原法人会

会長 上田 徹

農業委員会への女性委員の登用促進について

一般社団法人宮城県農業会議

会長 中村 功

みやぎアグリレディス21
会長 伊藤 恵子

「消費税のインボイス制度(適格請求書等保存方式)の実施中止を求める意見書」提出についての陳情

古川民主商工会
会長 小松 泉

沖縄戦戦没者の遺骨等を含む土砂を基地建設の埋立て等に使用しないよう求める意見書の提出に関する陳情書

遺骨等を含む土砂投入を憂慮する市民の会
代表 外山 真理

ひとくちメモ

インボイス制度とは
インボイス(適格請求書)は、売り手が買い手に対して適用税率や消費税額などを正確に伝えるため、一定の事項を記載し作成される請求書や納品書などの書類を指します。
売り手であるインボイス発行業者は、買い手である取引相手から求められたときは、インボイスを交付しなければなりません。
買い手は仕入税額控除の適用を受けるために、原則として、取引相手であるインボイス発行業者から交付を受けたインボイスの保存などが必要となります。

「第75号」の

お詫びと訂正

くりはらし議会だより 第75号(令和4年11月16日発行)の5ページ決算審査の記事において、担当課に誤りがありました。お詫びして訂正します。

正 健康推進課
誤 社会福祉課

祭りはその地域の バロメーター

私は住みやすい地域には必ずいいお祭りがあると信じています。私が暮らす築館西町地区にも長崎で有名な「蛇踊り」を独自にアレンジした「西町龍神踊り」があります。昨年コロナ禍の中で、3年ぶりにつきだて薬師まつりが開催されました。当地区でも規模を縮小してなんとか参加にこぎつけました。『また来年も必ず参加するからネ』の声を聞くと、それまでの苦労が報われる思いでした。特に今回主催していただいた実行委員会の皆さまには、この状況での運営で大変なご苦労があったと思います。しかし、地域振興のためにはその地域文化としての「お祭り」の継続が絶対に必要だと思えます。これからの「お祭り」の在り方を一緒に考えてみませんか。



ちほ ちほ
くわい
千葉 廣平さん
(築館)

私もひとこと



くりはら まゆみ
栗原 真弓さん
(若柳)

こころ若柳で

こころ若柳は、栗駒山を望む空がとにかく広いのです。大袋の牛蒡ごんぼの田んぼからの夕陽や満天の星空は感動ものです。そして四季おりおりの伊豆沼や迫川の姿、くりでんなどなど、皆に自慢したい大好きなこの町を誇りに感じながら生きていきます。

コロナ共存時代、地元言葉を使い続け、消えてゆく『わらべ唄』や『手遊び唄』を合唱として次世代に大切に継いでいきたいと考えています。それらさまざまを詰め込んだ『コーラスわかやなぎ40周年記念コンサート』を、6月4日ドリムパルで開催準備中です!!コロナ禍も地道に活動を続けてきた会員の皆さんの輝くステージを、ぜひ会場で応援してください。
私も音楽をはじらに燃え続けます。

あとかぎ

12月定例議会も終わり、今年は卯年です。卯年は、「飛躍する」年や時代の区切り、「契機になる」年とも言われます。広報編集調査特別委員会として、昨年の10月に先進事例調査を行って来ました。そこで学んだ良い面を、今後の「くりはら市議会だより」の編集に取り入れて活かせる「契機になる」年になればと思います。

今年こそは、とても長かった「コロナ禍」のトンネルを抜けて、市民の皆様にとりまして「飛躍する」年になることを願っています。

発行責任者

議長 佐藤 千昭

広報編集調査特別委員会

- 委員長 三塚 東
- 副委員長 菅原 紀
- 委員 菅原 幸
- 委員 鹿野 幸
- 委員 澤邊 浩
- 委員 小野 一
- 委員 菊地 志
- 委員 佐藤 悟
- 委員 三浦 浩
- 委員 菅原 喜

